

SONY

2008年度第1四半期 連結業績概要

(2008年6月30日に終了した3ヶ月間)

Sony Corporation Investor Relations

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しにのみ全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1)ソニーの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向、(2)為替レート、特にソニーが極めて大きな売上または資産・負債を有する米ドル、ユーロまたはその他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入と急速な技術革新や、エレクトロニクス、ゲーム、映画分野および音楽ビジネスで顕著な主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争の中で、充分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス(ゲーム分野において新たに導入されたプラットフォームを含む)をソニーが設計・開発し続けていく能力、(4)技術開発や生産能力増強のために行う多額の投資を回収できる能力およびその時期、(5)ソニーがエレクトロニクス分野でビジネス事業再編を成功させられること、(6)ソニーがエレクトロニクス、ゲーム、映画分野、その他および音楽ビジネスにおいてネットワーク戦略を成功させられること、映画分野および音楽ビジネスでインターネットやその他の技術開発を考慮に入れた販売戦略を立案し実行できること、(7)ソニーが主にエレクトロニクス分野において研究開発や設備投資に充分な経営資源を適切に集中させられること、(8)主にエレクトロニクス分野およびゲーム分野において、ソニーが製品品質を維持できること、(9)ソニーと他社との合弁、協業、提携の成否、(10)係争中の法的手続きまたは行政手続の結果、(11)生命保険など金融商品における顧客需要の変化、および金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネージメント遂行の成否、および(12)(市場の変動を含む)日本の株式市場における好ましくない状況や動向が金融分野の収入および営業利益に与える悪影響などです。ただし、業績に不利な影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

Sony Corporation Investor Relations

FY08.1Q 連結業績

SONY

(億円)

	FY07.1Q	FY08.1Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
売上高および営業収入	19,765	19,790	+0.1%	+8%
営業利益**	1,213	734	-39.5%	-34%
うち、持分法による投資利益	220	22	-89.8%	
うち、構造改革費用	34	6	-83.5%	
税引前利益**	1,057	629	-40.5%	
当期純利益	665	350	-47.4%	
1株当り当期純利益(希薄化後)	63.14 円	33.28 円	-47.3%	

為替変動による業績への影響額

		平均レート	FY07.1Q	FY08.1Q
売上高および営業収入:	約 +1,592 億円	1 ドル	120 円	104 円
営業利益:	約 -70 億円	1 ユーロ	161 円	162 円
		その他通貨		8% 円高

* LCベース: 円と現地通貨との間には為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)

** ソニーは、財務情報の表示と連結事業についてのマネジメントの見解との一貫性を確保するために、定期的にその表示方法を見直しています。ソニーは、持分法による投資の大半を占めるソニー・エリクソン、S-LCD、ソニーBMGの事業をソニーの事業と密接不可分なものと考え、FY08.1Qよりすべての持分法を適用している会社の投資損益を営業利益の一部として報告する方法がもっとも適切であると判断しました。この変更にもとない、FY07.1Qの営業利益および税引前利益をFY08.1Qの表示に合わせて組み替え再表示しています。

3

Investor Relations

FY08.1Q セグメント情報および関係会社業績

SONY

(億円)

連結セグメント		FY07.1Q	FY08.1Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
エレクトロニクス	売上高	14,293	14,391	+0.7%	+9%
	営業利益	1,035	444	-57.2%	-43%
ゲーム	売上高	1,966	2,296	+16.8%	+25%
	営業利益	-292	54	-	-
映画	売上高	2,314	1,596	-31.0%	-20%
	営業利益	46	-83	-	-
金融	金融ビジネス収入	1,848	1,830	-1.0%	
	営業利益	338	306	-9.4%	
その他	売上高	842	921	+9.5%	
	営業利益	89	67	-24.3%	

* LCベース: 円と現地通貨との間には為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)、映画については米ドルベース

ソニーは、財務情報の表示と連結事業についてのマネジメントの見解との一貫性を確保するために、定期的にその表示方法を見直しています。ソニーは、持分法による投資の大半を占めるソニー・エリクソン、S-LCD、ソニーBMGの事業をソニーの事業と密接不可分なものと考え、FY08.1Qよりすべての持分法を適用している会社の投資損益を営業利益の一部として報告する方法がもっとも適切であると判断しました。上記の持分法適用会社のうち、ソニー・エリクソンおよびS-LCDの持分法による投資損益はエレクトロニクス分野の営業利益に、ソニーBMGの損益はその他の営業利益に含まれています。この変更にもとない、FY07.1Qの各分野の営業利益をFY08.1Qの表示に合わせて組み替え再表示しています。

主要持分法適用会社

		4/07 - 6/07	4/08 - 6/08	前年同期比
ソニー・エリクソン (百万ユーロ)	売上高	3,112	2,820	-9%
	税引前利益	327	8	-98%
ソニーBMG (百万ドル)	売上高	875	820	-6%
	税引前利益	31	-42	-

ソニー・エリクソンはエリクソン社、ソニーBMGはベルテルスマン社との間で、ソニーがそれぞれの50%の株式を保有する持分法適用会社です

4

Investor Relations

FY08 連結業績見通し

SONY

(億円)

	FY07	5月時点のFY08見通し	今回のFY08見通し	5月時点比増減
売上高および営業収入	88,714	90,000	92,000	+2%
営業利益*	4,753	5,200	4,700	-10%
うち、持分法による投資利益	1,008	700	100	-86%
うち、構造改革費用	473	200	200	-
税引前利益*	5,671	5,100	4,600	-10%
当期純利益	3,694	2,900	2,400	-17%
設備投資額	3,357	4,300	4,300	-
うち、半導体投資額	900	1,100	1,100	-
減価償却費**	4,280	4,200	4,200	-
研究開発費	5,206	5,400	5,400	-
為替レート	FY07 実績レート	FY08 前提レート	FY08 前提レート (2Q以降)	
1 ドル	113 円	100 円前後	105 円前後	
1 ユーロ	160 円	158 円前後	162 円前後	

* FY08より持分法による投資損益を営業利益の一部として報告する変更にもない、上記のFY07業績および5月時点のFY08見通しは、今回の見通しの表示に合わせて組み替え再表示しています。

** 減価償却費は、無形固定資産と繰延保険契約費の償却費を含む

5

Investor Relations

FY08 連結業績見通し – 修正の主な要因

SONY

(億円)

	FY07	5月時点のFY08見通し	今回のFY08見通し	5月時点比増減
売上高および営業収入	88,714	90,000	92,000	+2%
営業利益*	4,753	5,200	4,700	-10%
うち、持分法による投資利益	1,008	700	100	-86%
うち、構造改革費用	473	200	200	-
税引前利益*	5,671	5,100	4,600	-10%
当期純利益	3,694	2,900	2,400	-17%

修正に至った主な要因:

- 営業利益に含まれる持分法による投資利益につき、ソニー・エリクソンの業績が5月時点の想定を大幅に下回る見込みであることから、見通しを700億円から100億円に修正したこと。
- FY08.1Qの営業利益につき、米ドルおよびユーロに対する為替レートが5月時点の前提レートに比べて円安だったことおよびゲーム分野の業績が好調だったことにより、若干想定を上回ったこと。
- FY08.2Q以降の売上高および営業利益につき、前提為替レートを5月時点の想定に比べて円安方向に修正したことが増加要因となるものの、エレクトロニクス分野における事業環境を5月時点の想定に比べより慎重な見方に修正したことが減少要因となること。

* FY08より持分法による投資損益を営業利益の一部として報告する変更にもない、上記のFY07業績および5月時点のFY08見通しは、今回の見通しの表示に合わせて組み替え再表示しています。

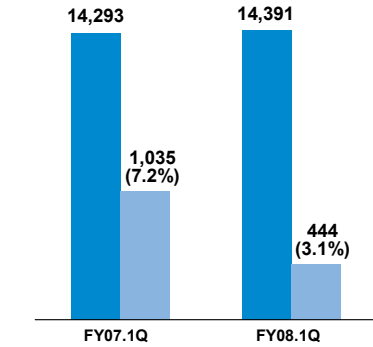
6

Investor Relations

売上高および営業利益

(億円)

FY08.1Q 業績



売上高: 0.7%増加 (外部顧客向け売上:2.6%増加)

- 増収: 液晶テレビ「BRAVIA」
- 減収: 為替による悪影響

営業利益: 57.2%減少

- (-) 要因: 価格競争の激化などによる原価率の悪化、持分法による投資利益の減少、為替、販売費・一般管理費増加
- (+) 要因: 売上増

製品別:

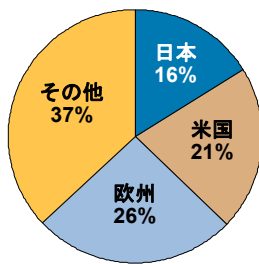
- 減益: コンパクトデジタルカメラ「サイバーショット」、ビデオカメラ「ハンディカム」、PC「VAIO」
- 増益: 液晶テレビ「BRAVIA」

前年同期比 (LC)

売上高	+0.7%	+9%
営業利益	-57.2%	-43%

FY08.1Qより持分法による投資損益を営業利益の一部として報告する変更にもない、FY07.1Qの営業利益をFY08.1Qの表示に合わせて組み替え再表示しています。なお、主要な持分法適用会社のうち、ソニー・エリクソンおよびS-LCDの持分法による投資損益はエレクトロニクス分野の営業利益に含まれています。

セグメント間取引を含む / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の(%)は営業利益率



営業収入を除く
外部顧客に対する売上
13,326 億円 +3% (LC +12%)

日本: -3%

- 増収: "ブルーレイディスク"レコーダー
- 減収: PC「VAIO」、イメージセンサー

米国: -3% (LC +13%)

- 増収: 液晶テレビ「BRAVIA」
- 減収: 液晶リアプロジェクションテレビ、ビデオカメラ「ハンディカム」、コンパクトデジタルカメラ「サイバーショット」

欧州: ±0% (LC +4%)

- 増収: 液晶テレビ「BRAVIA」、デジタル一眼レフカメラ「α」
- 減収: ビデオカメラ「ハンディカム」、携帯電話端末

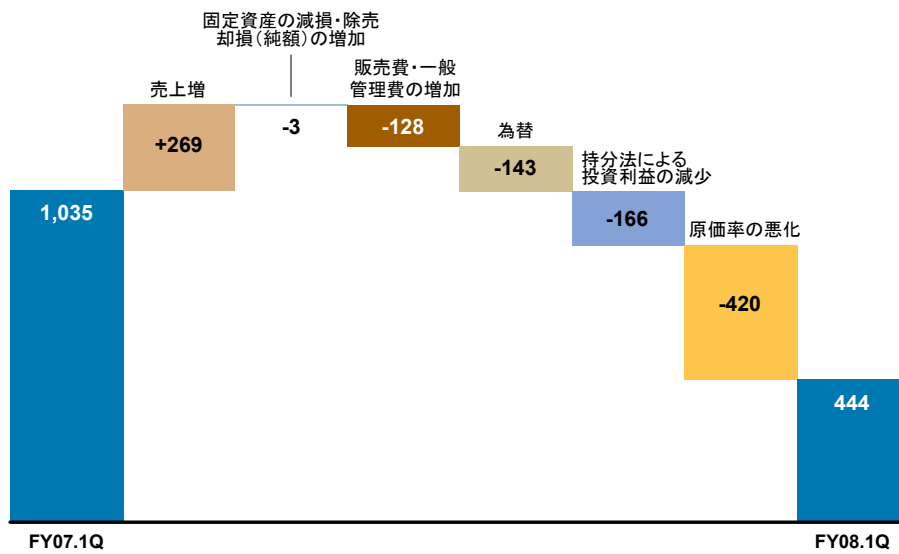
その他: +12% (LC +26%)

- 増収: 液晶テレビ「BRAVIA」、PC「VAIO」、イメージセンサー
- 減収: ブラウン管テレビ

円グラフは地域別売上高構成比(円ベース) / 営業収入を除く外部顧客に対する売上 / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率

FY08.1Q エレクトロニクス営業利益増減要因

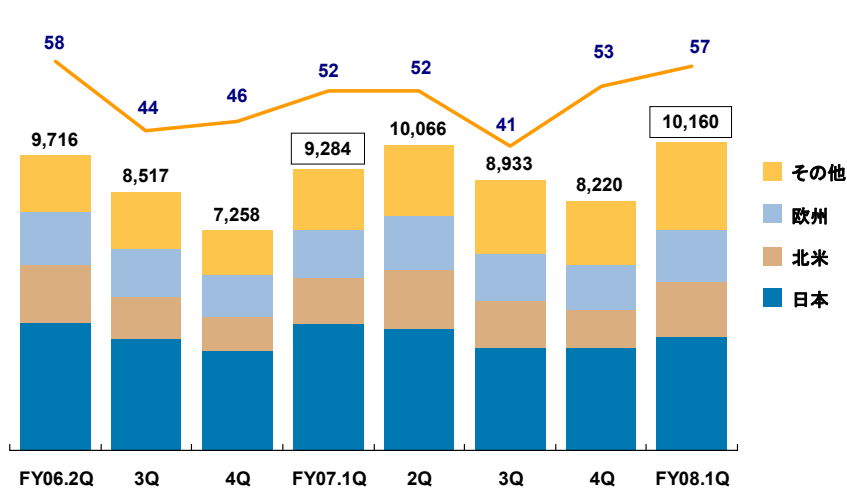
SONY



FY08.1Qより持分法による投資損益を営業利益の一部として報告する変更にもとまれ、FY07.1Qの営業利益をFY08.1Qの表示に合わせて組み替え再表示しています。なお、主要な持分法適用会社のうち、ソニー・エリクソンおよびS-LCDの持分法による投資損益はエレクトロニクス分野の営業利益に含まれています。

FY08.1Q エレクトロニクス連結棚卸資産(地域別)

SONY

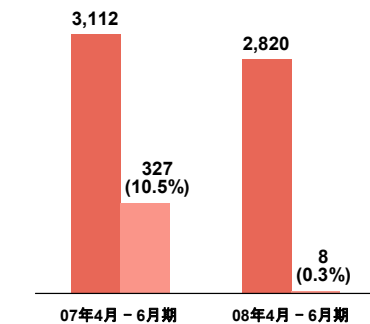


・ 10,160億円(前年同期末比 876億円の増加。2008年3月末比では、1,939億円の増加)

棒グラフ: 棚卸資産(億円単位)
折れ線グラフ: 棚卸資産回転日数(期首期末平均棚卸資産÷期中平均日次売上)

売上高および税引前利益

(百万ユーロ)



	前年同期比
売上高	-9%
税引前利益	-98%

08年4月-6月期 業績

売上高:

- 為替の影響、欧州における中位および上位機種の世界成長鈍化の継続、競争激化などにより9%減少
- 販売台数は前年同期比2%減少の2,440万台

税引前利益:

- 上記の理由に加え、売上高に対する研究開発費の上昇などにより前年同期比で大幅減少

ソニーへの影響額: 持分法による投資利益は6億円

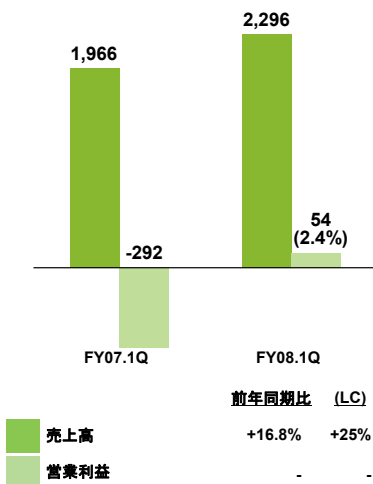
ソニー持分への影響額

	4/07 - 6/07	4/08 - 6/08	前年同期比
当期純利益(百万ユーロ)	220	6	-97%
ソニー持分への影響額(億円)	177	6	-97%

税引前利益下の(%)は税引前利益率

売上高および営業利益

(億円)



	前年同期比	(LC)
売上高	+16.8%	+25%
営業利益	-	-

FY08.1Q 業績

売上高:

- PS3、PSPの売上増加により、セグメント全体で増収
- ハードは増収、ソフトは減収

営業利益:

- ハードのコスト改善、ソフトの売上増加にともないPS3ビジネスの損益が改善したこと、およびPSPハードの販売好調による
- PS2はハード・ソフトともに利益に貢献

棚卸資産額:

- 前年同期比675億円、30%減少の1,595億円

売上台数

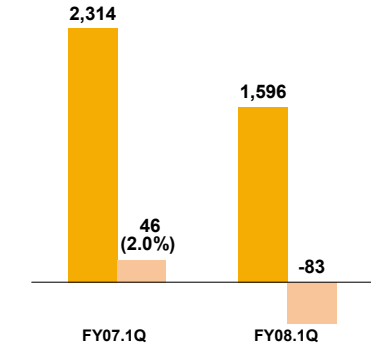
		FY07.1Q	FY08.1Q	前年同期比
ハード(万台)	PS2	266	151	-43%
	PSP	213	372	+75%
	PS3	70	156	+123%
ソフト(万本)	PS2	3,110	1,930	-38%
	PSP	980	1,180	+20%
	PS3	470	2,280	+385%

セグメント間取引を含む / LC: 現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の(%)は営業利益率

売上高および営業利益

(億円)

FY08.1Q 業績



前年同期比 (US\$)

売上高	-31.0%	-20%
営業利益	-	-

売上高: 31.0%減少、米ドルベースで20%減少

- 主に、前年同期に「スパイダーマン3」が全世界において好調な劇場興行収入を計上したのに対し、当四半期はこれに匹敵する規模の劇場公開作品がなかったことによる
- 一方、米国外のいくつかの番組配信事業において広告収入が増加したテレビ番組ビジネスの収入は増加
- 当四半期に公開され、劇場興行収入に貢献した主な映画作品: 「You Don't Mess with the Zohan」

営業利益: 83億円の損失計上

- 上記の劇場興行収入の減少、および劇場公開予定の映画作品に関する広告宣伝費が前年同期に比べて大幅に増加
- テレビ番組ビジネスは、上記の理由により増益

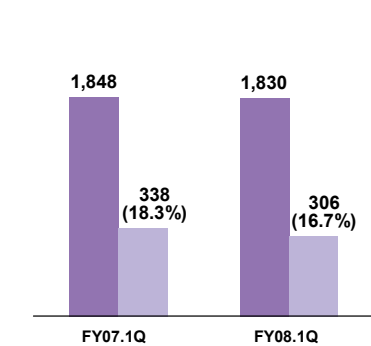
FY08.1Qより持分法による投資損益を営業利益の一部として報告する変更にもとない、FY07.1Qの営業利益をFY08.1Qの表示に合わせて組み替え再表示しています。

セグメント間取引を含む / US\$: SPEの米ドルベースの伸び率 / 営業利益下の (%) は営業利益率

金融ビジネス収入および営業利益

(億円)

FY08.1Q 業績



前年同期比

金融ビジネス収入	-1.0%
営業利益	-9.4%

金融ビジネス収入: ソニー生命の減収により、1.0%減少

- ソニー生命の収入: 4%減少
- (-) 要因: 一般勘定における転換社債の評価益および特別勘定運用益が減少したこと
- (+) 要因: 保有契約高の堅調な推移による保険料収入の増加

営業利益: ソニー生命の損益悪化により9.4%減少

- ソニー生命の営業利益: 20%減少
- (-) 要因: 一般勘定での転換社債の評価損益減少など
- (+) 要因: 上述の保険料収入の増加

ソニー生命の業績

	FY07.1Q	FY08.1Q	前年同期比
収入 (億円)	1,618	1,552	-4.1%
営業利益 (億円)	346	276	-20.3%

セグメント間取引を含む / 営業利益下の (%) は営業利益率

売上高および営業利益

(億円)

FY08.1Q 業績

SMEIの音楽出版事業およびSMEJの業績を含む

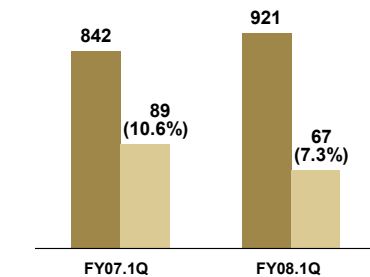
売上高: 前年同期比9.5%の増収

・ 主に、

- ・ 音楽ビジネスにおける著作権侵害に伴う賠償金請求に関する和解金収入の計上、
- ・ ソネットエンタテインメント、SMEJにおける増収などによる

・ SMEJ

- ・ 音楽配信ビジネスおよびアニメDVD作品の売上が前年同期に比べ増加したことなどにより増収
- ・ 当四半期の売上貢献アルバム: YUIの「I LOVED YESTERDAY」、加藤ミリヤの「TOKYO STAR」など



売上高
営業利益

前年同期比

+9.5%

-24.3%

営業利益: 24.3%減少の67億円

- ・ 音楽ビジネスにおける著作権侵害に伴う賠償金請求に関する和解金収入の計上があったものの、主にソニーBMGに関する持分法投資損益の悪化により全体で減益

FY08.1Qより持分法による投資損益を営業利益の一部として報告する変更にもない、FY07.1Qの営業利益をFY08.1Qの表示に合わせて組み替え再表示しています。なお、主要な持分法適用会社のうち、ソニーBMGの損益はその他の営業利益に含まれています。

セグメント間取引を含む / 営業利益下の (%) は営業利益率

売上高および税引前利益

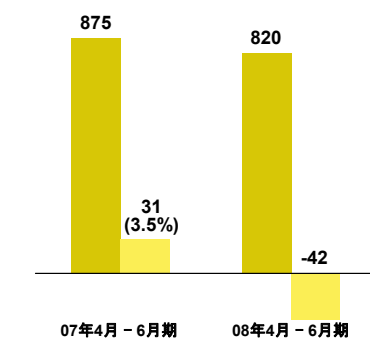
(百万米ドル)

08年4月-6月期 業績

売上高: 6%減少

- ・ 売上高: デジタル音楽配信売上は増加したものの、全世界におけるパッケージメディアの音楽市場が引き続き縮小したことなどによる
- ・ 当年度の貢献作品: Usherの「Here I Stand」、Leona Lewisの「Spirit」、Neil Diamondの「Home Before Dark」など
- ・ 税引前利益: 売上の減少、構造改革費用が前年同期比4,600万米ドル増加したことに加え、前年同期にソニーBMGの合併事業の持分の売却益が計上されたことなどにより、税引前損失を計上

ソニーへの影響額: 持分法による投資損失は25億円



売上高
税引前利益

前年同期比

-6%

-

ソニー持分への影響額

	4/07 - 6/07	4/08 - 6/08	前年同期比
当期純利益 (百万米ドル)	21	-49	-
ソニー持分への影響額 (億円)	12	-25	-

税引前利益下の (%) は税引前利益率

FY08 エレクトロニクスおよびゲームの売上台数見通し

SONY

エレクトロニクス

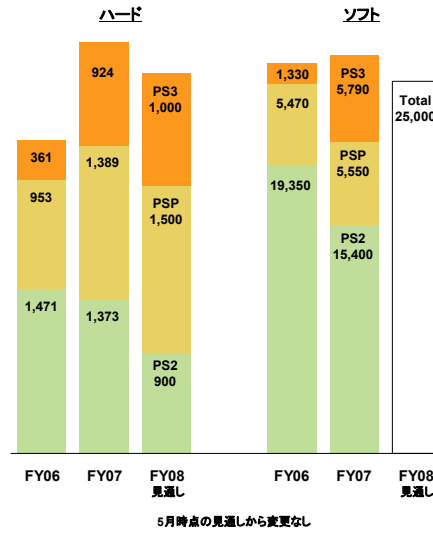
(万台)

	FY07	FY08	
		5月時点	見通し
デジタルミュージックプレーヤー「ウォークマン®」	580	700	700
ビデオカメラ「ハンディカム®」	770	770	770
デジタルカメラ「サイバershoot」	2,350	2,600	2,600
“ブルーレイディスク”レコーダー	-	-	60
“ブルーレイディスク”プレーヤー	-	-	250
DVDプレーヤー*	850	900	900
DVDレコーダー	170	180	180
液晶テレビ「BRAVIA」	1,060	1,700	1,700
PC「VAIO」	520	680	680

* DVDプレーヤーはFY08よりポータブルDVDプレーヤーを含む(FY07は組み替え再表示しています)

ゲーム

(万台、万本)

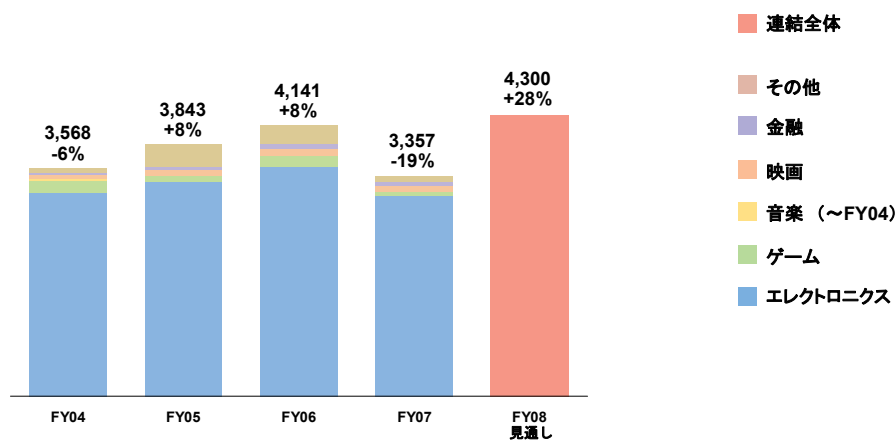


5月時点の見通しから変更なし

FY08 設備投資額見通し

SONY

(億円)



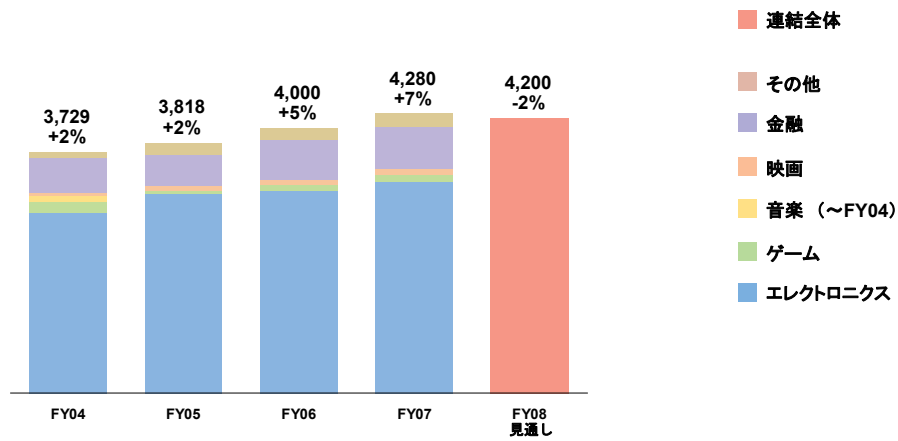
- ・ FY08設備投資額見通しのうち、半導体向けは1,100億円(FY07は900億円)
- ・ 5月時点の見通しから変更なし

%は前年度比伸び率

FY08 減価償却費および償却費見通し

SONY

(億円)



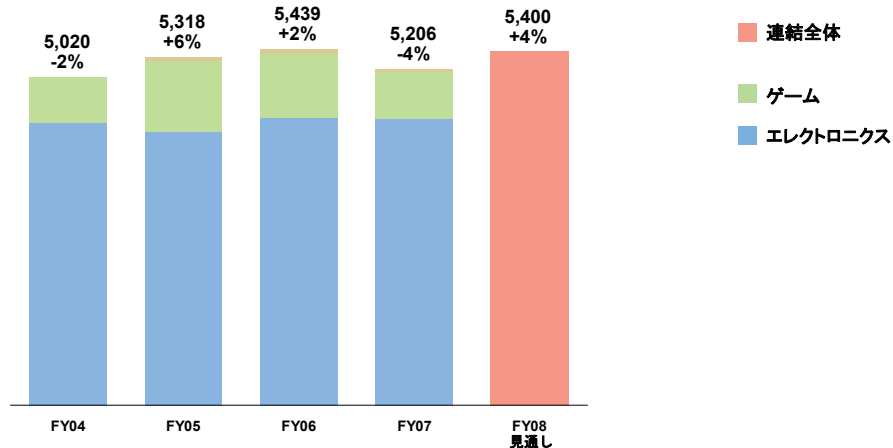
- ・ FY08減価償却費および償却費見通しのうち、有形固定資産分は3,300億円(FY07は3,289億円)
- ・ 5月時点の見通しから変更なし

%は前年度比伸び率

FY08 研究開発費見通し

SONY

(億円)



- ・ 5月時点の見通しから変更なし

%は前年度比伸び率